

# 道徳科学習指導案

授業者 泉谷量平  
学年・学級 4年2組  
場 所 4年2組

## 1 主題 「無償の愛」 【C 家族愛, 家庭生活の充実】

(教材「ブラッドレーのせいきゅう書」『道徳4 きみがいちばんひかるとき』 光村図書)

## 2 授業づくりについて

本学級の子どもたちは家庭生活の中で、自分も家族の一員として自分なりに家族の役に立とうと努力している。例えば、疲れた様子の母親にマッサージをしたことで『マッサージが上手だね』と褒められるんだと嬉々として語ったり、両親の家庭での様子を目の当たりにして風呂掃除を日課にしたと語ったりする子どもの姿がある。しかし、忘れ物をしてしまった際には「お母さんが準備してくれなかったなんだよ」とつい、母親のせいにしてしまう姿や校外学習の際にお弁当を食べる際に、「○○さんみたいにキャラ弁にして欲しい」「何かお弁当が地味だよ」と話す子どもの姿が見られる。このように家族に対して「してもらって当たり前」という意識から、家族の自分に対する思いに気付かずに敬愛の心を欠いた言動をしてしまったことは誰も経験したことがあるのではないだろうか。

そこで、本主題を通して家庭に貢献している家族の思いや願いについて考え、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする実践意欲と態度を養いたい。家族は家族の幸せを願い、見返りを求めない無償の愛を注ぐ。そのような愛を受け育つ中で人は安心感を抱く。この経験が人に対して主体的に関わろうとしたり、人を思いやったりする原動力の一つとなる。だからこそ、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする心を養うことは重要であろう。しかし、中学年という発達段階から家族への依存性が高く、してもらって当たり前と感じ、家族の思いに気づけなかったり、見返りがなければ家族のために何かをしようと思えなかったりすることがある。ここで大切なことは、家族が子どもの幸せを願い、見返りを求めない無償の愛で守り、育ててくれていることに気付くことである。また、自分も家族のために役に立ちたいという思いを高めるために、家族それぞれの思いや願いについて実感をもって理解したり、家族の役に立つことのうれしさを自分自身の経験や友達の経験と関連させながら考えたりすることも大切である。

今回扱う、「ブラッドレーのせいきゅう書」という教材は、朝、ブラッドレーが母親の皿の横にお使い代等を請求する「請求書」を置くことから話が展開する。ブラッドレーの請求書を受け取った母は静かにほほえみ、請求通り4ドルと0ドルと書かれた請求書を机に置く。母からの請求書を見て涙を流すブラッドレーの姿やブラッドレーの姿をやさしく見守る母の姿から、家族の思いや願いについて考え、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする意欲を高めることができる話である。母からの請求書を見て涙を流すブラッドレーの姿は子どもたちにとって共感しやすいものであろう。ブラッドレーからの請求書を見て静かにほほえむ母の思いや「お母さんごめんなさい。」と言われた後の母の思いを想像したり、話し合ったりすることで見返りを求めない無償の愛を注ぐ家族の思いや願いについて多面的・多角的に考えることができる。

以上のような子どもの実態と教材の特性から、指導に際しては次の2点を大切にしたい。1点目は見返りを求めない無償の愛を注ぐ家族の思いや願いについて考えやすくするために、ブラッドレーや母の思いや願いを対比的に板書する工夫である。ブラッドレーや母の思いや願いを対比的に板書することで、ブラッドレーと母、それぞれの思いや願いについて視覚的に捉えやすくなる。そうすることで、無償の愛を注ぐ母の思いが際立ち、家族が子どもの幸せを願い、見返りを求めない無償の愛で守り、育ててくれていることに気付きやすくなるのではないかと考えた。2点目は実感を伴った理解を促すための学習活動として、役割演技を取り入れる工夫である。教材を読んで考えるだけでは、「お母さんごめんなさい。」と言われた後の母の思いや願いを想像しにくい子もいるであろう。母に自我関与し、「お母さんごめんなさい。」と言った後の場面を演じることで母のブラッドレーに対する思いや願いを想像しやすくとともに、実感をともなった理解を促すことができるのではないかと考えた。また、役割演技後に「なぜお母さんは毎日、お家の仕事を続けているのだろう」「家族のために頑張って何かいいことがあるのかな」といった見返りを求めない無償の愛を注ぐことの意味や意義を考える問い返し発問をすることで、子どもたちの家族への思いが一層、育まれていくことをねらう。

### 3 本時の展開

#### (1) ねらい

せい求書をやり取りするブラッドレーと母の姿を通して、ブラッドレーと母、それぞれの思いや願いについて考え、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする実践意欲と態度を養う。

#### (2) 本時の展開

学習活動	主な発問と予想される子どもの反応	教師の働きかけ
1 「お手伝い」についてのイメージを共有し、捉え方の違いに気づかせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お風呂掃除が多いね。</li> <li>・食器洗いもしているよ。</li> </ul> ○なぜお手伝いをしているのかな。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・お家の人に言われるからだよ。</li> <li>・家ではお手伝いをするとお小遣いがもらえるんだよ。</li> </ul> ○お手伝いをしたいわけじゃないんだね。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・えっ、したいよ。</li> <li>・お家の人に言われるからしているんじゃないのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートの結果をデジタルテレビで提示する。そうすることで、即時的に子どもたちの経験を共有することができる。</li> <li>・お手伝いをする理由を問う。そうすることで、それぞれの「お手伝い」の捉えが表出され、捉え方の違いに気づくことができる。</li> </ul>
<b>【学習テーマ】</b> なぜ、お手伝いをしたくなるのかな。		
2 教材文「ブラッドレーのせいきゅう書」を読んで、話し合う。	○何でブラッドレーはせいきゅう書を渡したのかな。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の頑張りを認めてもらいたかったんだ。</li> <li>・お小遣いをもらうともっとやる気になる。</li> </ul> ○なぜ母は静かにほほえんでいるの？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当は怒っているんじゃないかな。</li> <li>・だって、自分をもっと家族のために働いているからね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラッドレーと母の考えを比較して捉えられるように黒板を整理する。そうすることで、それぞれの思いや願いのズレが明確になる。</li> </ul>
3 役割演技を行い、ごめんなさいと言われた母の気持ちやごめんなさいと言ったブラッドレーの気持ちについて話し合う。	○「ごめんなさい。」と言われた時、お母さんは怒っているのかな。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒っていないと思う。</li> <li>・気持ちが伝わってうれしいはずだよ。</li> </ul> ◎この時、ブラッドレーはどのようなことを考えているのかな。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことばかり考えて恥ずかしい。</li> <li>・自分も家族のためにもっとお手伝いをしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技をすることで母やブラッドレーが家庭での仕事についてどのように捉えているのかを想像しやすくする。</li> <li>・生活経験と関連させて考えられるように、子どもの生活経験を補助資料として用いる。</li> </ul>
4 本時の振り返りをする。	○なぜ、お手伝いをしたくなるのかな。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あるよ。お母さんの頑張りを知って自分もお母さんのためにお手伝いをしたくなったよ。</li> <li>・お母さんほどはできないけれど自分にできることをすると家族みんなが幸せになるね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な考えに触れることができるようにPadletを使って学習を振り返る。</li> </ul>

#### (3) 評価の観点

- ・自分自身の経験や友達の経験と関連させながらせい求書をやり取りするブラッドレーと母の姿を通して、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくるにはどうすればいいのかを自分との関わりの中で考えようとしたか。
- ・家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくるにはどうすればいいのか、自分なりの考えをもち、友達と対話する中で道徳的な見方・考え方を働かせようとしていたか。